





三教和漢

三教正宗卷下

證明相見之知識名數信
テニ手録之勿責以品位無序

神

神道長卜部朝臣從三位左兵衛督兼連

吉田從五位下鈴鹿石見守

吉田從五位下鈴鹿周防守

伊勢國龍傳左衛門尉 洛陽北村季吟

洛陽北村湖春 洛陽望月長孝

洛陽平間長雅 播州姫路菅原長和

儒

洛陽竹田杏仙法印

洛陽熊谷了菴法橋

洛陽宇都宮由的

洛陽伊藤古菴

洛陽伊藤源助

洛陽野村順誠

攝州大坂古林見宜

攝州大坂北山壽菴

攝州大坂五井加助

攝州大坂一時軒惟中

佛

御室真乘院大僧正

洛陽兩本願寺大僧正

智積院大僧正泊如

山城泉涌寺天主和尚

高野山無量壽院

高野山寶性院

攝州畠原空觀

山城國山崎以空上人

比叡山正覺院大僧正

比叡山鷄足院大僧都

洛陽東山妙立比丘

攝州住吉快圓比丘

河內國覺彥比丘

洛陽本國寺日隆聖人

洛陽妙顯寺日耀聖人

洛陽立本寺日亨聖人

東山禪林寺回隆上人

西山光明寺慧雲上人

洛陽正願寺了意

尾州榮國寺善空上人

南禪寺剛室寬長老

光雲寺英中賢長老

相國寺太虛靈長老

建仁寺松堂植長老

東福寺辰長老

天龍寺古潭長老

妙心寺萬拙長老

大德寺天倫長老

播州龍門寺盤珪長老

黃檗開山隱元老和尚

黃檗山二代水菴和尚

黃檗山三代慧林和尚

黃檗山四代獨湛和尚 大坂國分寺南源和尚
大坂舍利寺悅山和尚 山城佛國寺高泉和尚
江戸瑞聖寺鐵牛和尚 江戸瑞聖寺慧極和尚
差我直指庵獨照和尚 播州雲松寺實傳和尚
作州千年寺鐵堂和尚 和州法光院梅谷和尚
江州正明寺晦翁和尚 三河國好山碧峰和尚
大坂瑞龍寺寶洲和尚 筑後福嚴寺玄堂和尚

雖イモセサ參サ一ヒト百ヒトニ餘ヒト員ニ官シ人シ諸シヨ候ユウ恐ラカ有ハ
不好ガク流コム布ル之ヲ人ヒト竊ヒシ察カニ其テ意イ略リ之ヲ

知識名數終

三教正宗卷之下

野夫神儒佛ヤフ三教ニ心ヲとシ之ヲ特ニ持ツ所ト々
乃名師ノと尋ニ諸國ニ往來シとシ凡ソ神ノと慈悲ト正直
六根清淨ノと以テ至極ト一ニ儒ノ仁義禮
智信ト深ク守リ五倫ト道ト厚ク行ヒ明德
新民ニ至善ニ三綱ト正シ人欲ヲ私ニ絶シ根
源ト佛ノ柔和ト忍辱ト戒定ト惠ト深ク信ト此
心性ト悟フ肝要ト静ニ察シ其行ヲ作ル替ヒ之ヲ三教ニ一致トして
神佛聖更ニ別ニ之ヲ二道ト何レ諸惡ヲ莫ク作ル諸

善奉行此二句と離るる不測乃利至徳此性
 不生此心毫釐と替ゆ事か。唯三教ハ一心
 と明みあると一めん此教門あり。此心明あは
 時一切無事あり。爰み至ると則慈悲正直此
 人とあもつと入り道と人々自知とゆより外
 るか。學者迷て師よりあり是佛とと
 へハ麻三斤胡餅或時と乾屎橛とと答えり。
 たとへんが學者のひ得ても三十棒のひ得ぬ
 と三十棒千度百度師の證明と受くとといふ
 と其心未安くと怒り見れば貪著あつた

何れせんりあるん皆妄想あはゆ一

三教一致みして替事あらりといふ
 十一のこれらとれみかくよとて
 和尚よあつたりゆり一よ

道純

祇佛聖れなるよこのあ一迷て固もこころなる
 世とともひんといふかひかか一祇佛と聖なるを
 観れんか法教のあつてと誰か入て世をまはる
 とつていふか

一...
 末...
 向...
 今...
 何...
 武...
 道...

看破了始知獨唱太平歌

武彊 江戸 瑞聖寺 慧極書送

道純

道...
 目...
 但...
 然...
 尿...
 也...

慎之

黄檗木菴山僧書宗

唐人

道純清淨居士

網下龍門寺盤珪和尚へ二親とらひ
出家と勸め則墨染れ長と袖とあ
ゆりぬ其らあまの法をこゝに立
峯宗雲居士と名付給ふ不生れ示しと
同くはけ魚鱗と羨りぬれを師に
紙に示しと給りゆゆりぬ

道純

福とありたるとはひの法と坐す
字ひ清く不しあゆとまればおれ
皆の會をあらわんあふ不し
翠巖參禪師夏末示衆云一夏以來爲兄弟説
話看翠岩眉毛在麼保福云作賊人心虛長慶
云生也雲門云關

播州網下龍門寺盤珪叟書送

法れるよ黄檗禪師ふかふあこく
かくめん

道純

年と魚とふふまやうふりうけを考案の法あり
ひりきくひり運花印けあうふりうけを法なり
世情假合總非真觀破空花絶點塵十載歸依
黄檗室一心不昧本來人幻縁酬畢奚畱碍正
信無修徹夢津半偈助揚登彼岸蓮花會上觀
能仁

黄檗山隱元老僧書送

唐人

二親みゆりく孝とけりく侍らんこと
あひく佛れらるととめ入らふ

道純

たらしらよ佛れ教とめりよとめまよめりよ入ら利
人生最大事孝順兩個字孝感鬼神顧順悦父
母意佛子報劬勞一心行孝義志誠禮念佛未
佛光明庇祝願二尊親早登諸佛地道純行亦
純心至孝亦至離是報慈親入天普共利

黄檗大眉山僧書送

唐人

道純

あひく佛れらるととめ入らふ

淨佛空如の如ての如きよの如き人
 生死涅槃眼裏塵一齊掃蕩未爲眞超然獨脫
 威音外始顯本來無事人

山城嵯峨直指菴獨照老衲書送

道純

神佛空の乃てをばれを我れ心そたつりりり
 夜夜を神や佛れ乃てばりもいりん
 我覺本不生出過語言道諸過得解脫遠離於
 因縁知空等虚空

攝州島原空觀書送

大僧正泊如よを伝わりて佛の乃て
 心よりてくめん

道純

一箇み佛れ乃て心
 如字知自心

智積院大僧正泊如 書送

道純

大事因緣非意非識不可言語到不可寂
 默通行棒行喝豎指示拳畢竟看來悉是扣門
 瓦子也雖然與麼我不輕汝汝當成佛

武州江戸東海寺天倫書送

南源和尚よまみえ侍りく師れ病療治
 と占ひ上げしりいけ傷を侍りく侍り
 一対み予ゆらん

道純

爲道性純真處身行實朴一念未生前吉凶作
 麼下

道純善士能下偈以送之

攝州大坂天徳山國分寺南源書

道純

一會不生前後際斷

山城國泉涌寺玉樹軒天主書送

一日天台比丘妙立和尚と妙立休亭と
 事り給ぬ野史將して曰我佛戒とぬ
 しくきき侍りて酒造るものと止めりぬ
 よしと悟られを師接授れ和奇よめく
 ぬ

妙立

あひまへおひそかに唐人おまひらひしき
 ぬ
 道純

我ら又みればたつと捨る社座のまゝに
 一とせ伊勢北園と曰のまよのちり侍り
 龍傳の傳尉よおまのちり侍るとまよ
 は古奇物なるまよのちり侍るとまよ

真宗門院丹後

あひまへおひそかに唐人おまひらひしき
 魚言曰は古奇物なるまよのちり侍るとまよ
 ぬれおまひらひ耳よのちり侍るとまよ
 龍池深くあら魚兒古奇なる

國やとく民をよめとめたるめすくそむる神のめぐりて

或時^{あるとき}神樂岡吉田^{かぐらおかきちだ}み至^{いた}りて侍りて^{まへ}三位左兵衛督^{さんまいさへいゑとく}
み逢^{あひ}奉^{ほう}りて則^{すなはち}二拜^{にらい}して神^{かみ}と問^とみ予^よ愚蒙^{ぐもく}よ一^{いつ}
て唯一^{ゆいいつ}兩部^{りやうぶ}れ差別^{さべつ}とありて又^{また}神書^{かみしょ}等^らと學^{まな}
み力^{ちから}か一^{いつ}唯^{ただ}多年^{たねん}三社^{さんしゃ}れ託宣^{たくせん}と守^{まも}りて其道^{そのみち}と
行^いく又^{また}三社^{さんしゃ}れ神^{かみ}と家^{いえ}み勸請^{くわんせい}し奉^{ほう}りて朝暮^{あそり}み
燈^とと挑^ひげ御食^{みけ}洗米^{せんまい}と備^{そな}へ再拜^{さいらい}と三位公^{さんまいこう}曰^い
神道^{かみちう}廣^{ひろ}しとつごも豈^{あやう}此^{こゝ}三社^{さんしゃ}乃^の神語^{かみご}よ増^まと

ゆのか一^{いつ}愚^ぐ云^いく志^しりてば^ばる^る所^{ところ}と社^{しゃ}れ託宣^{たくせん}と
書^かて終^はるんやと願^{ねが}ふ則^{すなはち}書^かして終^はり侍^{まへ}りぬ
又^{また}其^{その}らみ會^あはれ所^{ところ}れ神易^{かみやす}闡^{くわん}乃^の占^{うら}ひと語^ご
りて則^{すなはち}闡^{くわん}と以^もて師^し乃^の疾^{しやく}病^{びやう}并^{なら}其^{その}日^ひれ時^{とき}刻^{こく}と
占^{うら}ひ一^{いつ}み悉^{しつ}く應^おありしりて師^し曰^い夫^{その}神^{かみ}を正^{ただ}
直^{ただ}れ頭^{かぶ}よやごはあり汝^{なんぢ}り闡^{くわん}み應^お驗^{げん}あり事^{こと}
正直^{ただただ}乃^の實^{まこと}ありまやとせん

一^{いつ}とせ攝^{さつ}易^{えき}大坂^{おほさか}舍利^{せり}寺^{てら}み至^{いた}りて侍^{まへ}りて
悦^{よろこ}山^{さん}和^わ尚^{しやう}よ會^あ得^{とく}と心^{こゝろ}所^{ところ}れ易^{やす}道^{だう}と終^はり

予作一編於祿易卜書と開ひく則師乃
吉凶疾病療治と占ひけりば應有ぬ
師れ日汝奇妙と得たりと有一時
る

道純

何事と易よゆせと世中と流るゝ安んじりたり
優遊歲月走諸方占卜吉凶說短長無位真人
占得著許君手段出尋常

常意公能卜卦

南岳山舍利寺悅山書送

唐人

上四恩れ仲ふしと源さふ大君
れ御徳あゆ事とあひゆり

道純

九重や波乃とと枕めく流るゝあふと

道純丈士和詠

皇風徧布成清德澤謝恩之歌一首

四海咸歸皇化風猶如無水不朝東
多恩澤友側登忘鳳閣中

播州姫路雲松寺實傳頭陀

廣詠尾

四民霑九重天澤戎客叩頭歌王風黍勅同
恩大悲院麻衣覆護窳窳中

山城國山崎普門道人以空 和送

吾回三位左兵衛督泉涌寺天主和尚光
雲寺玄賢和尚并諸方貴官儒醫數多れ
判しん極め闖れ占ひとせしりて雲
松寺和尚みりりりれどは偈と送りぬ

掌中能卜点無私倭國判圖兼有知一畫未彰
若何辨當人機發脫龜著

高砂道純居士能下及判圖仍偈送之
鶴棲山實傳書送

予今古賢司馬杏生嚴君平れ家流と學
びあしめ彼ましゆりく賣トと
々あよしとくりりれどは偈と送りぬ
五十三叅々得了機含造化手中拈百錢閉肆
嚴君卜一咲瞞入司馬占

道純居士禪餘為人能卜一決定天命仍
偈以贈

慧日山正法寺大極書送

奉納 住吉大明神

道純

復者れうし波さよの死熱まをほに月とをねるまじ
為橋為舟苦海中去々來々齊濟渡
武州江戸端聖寺慧極 和送

奉納 玉津嶋神前

道純

とあはれあふんてし守もしは徳神のあつれ世にひます
元無邪正慈念莫吝如玉如金光明不盡
武州江戸端聖寺慧極 和送

奉納 北野天満宮

道純

心しほふのあふれそとあはれひのひの天満神
七字尊號天封下臻徳香萬歳天満天神

同慧極 和送

或時聖德太子れ繪像と法雲寺より送り
侍らんとて

道純

日頃の法御を奉れどもあり佛を言ふはくやま
慈齊佛陀德超賢聖世出世間有誰不敬

同慧極 和送

は十れまをさるふ大聖孔子れ詞よとて侍り

道純

或りか浮世れかまゆくとて歌を軍れ志とせ可也
花甲初登不惑年温純道氣契群賢低頭問我
長生句咲指萬松翠接天

攝州大坂舍利寺悅山 和送 唐人

一切空寂方法無相あり酒とのたよ到り
ての香よりて色よまよりのあ

道純

法れれりて花像よとて書けりて心くか

春去春來臻不惑從前於道貴如愚餘生不識
何功業依舊趙州一字無

京東山光雲寺玄賢 和送

一とせ人れ能く法能く傳りたるよ

道純

播州有箇居塵士學道純誠絕彼此空卻三輪
施衆人是則名為眞佛子

山城國伏見佛國高泉山僧

和送 唐人

軍印のれれ九重れまふあはゆり
夕そ内侍のりゆまふゆてみるこの
祿實れんとあまひくは祿佛れこの
れ乃よあまてかくめん

道純

出生入死非他訣只要當人自了徹掃蕩胸中
一物無眞機獨露便超越

黃檗山獨吼老僧 和送 唐人

黄檗山ワウバクの歳トシと越こゆる比ひ木庵キウアン和尚オウシヤウの緊キム
 那羅ナラと作ツクり奉ほうりしを師シに日ヒは薩埵サツヂ
 の文珠モンジュに再さい來らいよしして是こゝと造つく立たしすの
 とぶんの大だい智ち慧ゑしともうく予よ進すすていし
 師シ我われたれよ説せつ事じありしをを後ご法ぽうの中ちゆう二に義ぎ
 ありしとひびくさうありあんどくあん

道純

ゆるとも緊きんの體たいをたつとよよとあいのわらあふ

道純ドウジュン常意居士ジョウイキヤシ參まゐ我われ紫雲老シウンラウ和尚オウシヤウ有年ユネン

常ジョウ崇ソウ尚シヤウ神シユ儒ニョ佛フツ之ノ三サン教キヤウ一イツ日ニツ造サウ製ゼ大ダイ聖セイ緊キン
 那羅ナラ王ワウ供クフ師シ僅ヰン奉ホウ和歌ワカ一イツ首シュ予ヨ依イ其キ韻イン尾ビ
 作サツ一イツ絶ゼツ贈ゾウ之ノ

兼カミ修シュ三サン教キヤウ意イ常ジョウ誠ジョウ不フ動ドウ于コ戈カ致シ太タイ平ヘイ透トウ過カ佛フツ儒ニョ
 一イツ貫クワン旨シ菩ポ提テイ妙ミョウ果カ自ジ然ゼン成ニナル

三河國カワノクニ好山カウサン碧峯ヘキホウ 和送ワゾウ

五戒イゴいしと重おもさふりあしとよまて
 教せう生しやうれれ羅らぬぬくくれれのの思しひひ結けつりりく

道純

佛と有り舍利のてりてたゞるまじし心もいふも殺すこと
一切含生存佛性互相殺害見何愚苟行不殺
兼能放天上人間樂有餘

黄檗華嚴惟一 和送 唐人

前生乃因果此がどとまうざれを何れか
負多め生じて受らるんやとこひゆりそ
殺生して一なる時

道純

魚をけむれば世にまうざれをりて殺すものけむる

我見世間人更無超物表善哉好放生遠害馴
魚鳥

播州姫路寓雲松寺沙門太極 和送

念の生じて行く人悪業をふして死しぬ
まばはまよる魚虫の生れく事殺ひぬ
事してこひゆりそとくめんげぬ殺すれ
殺ひねそろく一魚虫の殺せば又ぬり
命一生ぬ一度殺さる一命又一命よめ
とこひぬ命とされぬ子度殺らるとめん

道純

教と海にたひらひらとる男はまじりてれ推しおれとる縁を
宋皇太有慈故立放生池因果明明歷人人須
自知

播州姫路寓雲松寺沙門大極 和送

寒水よんれ足のぬきこころをとりん結りそ
思橋れあしあることおけし時

道純

つくり思ひよりて思橋れわさぬふけりうきをばらば

古渡溶溶水架橋人稱美濟川新樹功萬世長
無耻

同大極 和送

家も酒ゆる事をとやめゆりし時

道純

ゆる酒一酌まよかり酒おれ答りおととるあつらふ
戒將酷酒最爲重醉倒幾人各回避酒器翻成
般若舟撐來常渡意無比

播州姫路雲松寺實傳 和送

我々の心もあつて橋をわたりて絶つ時
燈をたもたふとて海へ船をゆり
よひくめん

道純

橋なきを燈をたもたふとて海へ船をゆり
橋断望洋人悉病有茲善士為浮艦往來只不
能乘蘆渡口得便心自靜

播州姫路雲松寺實傳

和送

江戸瑞聖寺。先住鐵牛和尚より。春見し。予今
東國より下りてゆらむ。又みれば。事よあり。其
其上善財童子。此乃と學ひ。法圓の知識。其
衆の。予曰。大山大寺。此高住。高僧。碩學。詞
法。乃。汝門たり。と。自性。明り。あり。此。至。慈。悲
あり。と。予。是。と。知識。と。せ。た。と。ひ。心。野。の
亂人。賤。と。い。と。い。と。お。び。り。あり。と。も。慈。悲
正直。あり。と。別。知識。と。師。曰。是。汝。り。い。ふ。不
至。極。せ。り。じ。う。善。財。童。子。衆。の。知識。の。中
め。と。ま。ま。く。あり。や。より。炎。と。お。せ。た。燒。熱。

婆羅門あり。又玉乃りかをせうりく。れ女
人あり。媿男媿女大活神の。大若者徳あり。三
身と護法せし人多くしとありん

やびこしとありし御方へ尾よのりよれ
生梵經乃たろやうとよけ侍るよ

道純

多砂乃尾よれ神の巻まても思り八子世とひくありん
思ひとる佛の教のそとれよまはれと思ふありん
調御毫光照霄壤天人盡是堪瞻仰梵字寫成

貝葉中聊謝

國恩獻

太上

若耶樵夫和

播州高砂厚見道純無半面識不持紹介
登門請謁感求法信篤許謁相見所謂鑄
新鐘掛淨刹有人詠和歌隨喜今歎鳴鐘
功德令諸人生信心是我所願也山僧說
偈和之

有は方詠

まことありんかむいじりきもや尾よれの素心ひん

鳴鐘功德益深廣何止人間與天上十方普聞
警晨昏脫泥犁苦一聲響

維西妙心寺大雄院萬拙 和送

じり東岸居士法とら死又あはれ
松とかけくんの香とたどけし
思ひかへ予もそのあられとら
てあはれ川よらいつれ板とら
くはれくあん 道純

いあはれ乃若きあられとら

度生誓願在居常觀厲揭憂架與梁教此岸人

到彼岸濟川功與水流長

維西妙心寺大雄院萬拙 和送

西山澤住寺鐵牛和尚へり
痼病療治寺れ吉函と占ひて後一
と縁ひたれを師則は偈と書て
し時是れ奇母のくあん

道純

鐵牛は病ひのあれとら今道純と占よらん

釈尊も占察經にてこれなりうひませて療治あそもせ
一面當頭察肺肝窮通壽夭未然觀鐵牛不屬
陰陽數漫使季咸卜轉難

示

西山淨住寺鐵牛老僧書

易者厚見道純隱士

あは時擣引龍野志入守人觀喜此中像
とよすれをいふおをられりふ能
とせ給へむありうく思ひゆりてうかん

道純

ありかゝる民と救へる者おれをち慈乃らうひまをたはし
宰官身也居士身繪即真今真即繪不入圓通
無礙境人間百歳亦無頼

雜東東禪院大隨玄機 和送

あは念佛者乃破戒めして兵名号
とくりめく極樂に往生し侍るや
よむく心けりうのそてれりりるふ

道純

布能持戒也存心過心と考してて何と云ふは佛の寫
和歌一首意尤親各看之須愛好日日勤修菩
薩行時時恭唱佛陀號

洛東東禪院大隨玄機 和送

播州高砂人厚見道純未識面貌一日扣
柴扉親見恰如舊相識也且所謂以下
筮定事驗於諸人一無不應者則面前布
下其言如神遇予問之以傳來之由答曰
否自知自得何以所受哉雖然不用邪曲

多辛經歷外國而謁神儒釋之老宿修習
久而以為三道歸一在正直唯以正直占
之有何異竟述其旨以和詠二首請予和
之予不得辭而用直字卒具韵爾

道純

神佛をたてて皆ふよ占よまらむくおぬりやせん
りらく乃漣あふふよ乃たつたをさあむらふよと
手中太極又無極玄妙通天定失得日日同參
二教人清言能公公方直

京城野夫大橋衛足書送

多^んく^やぬ^ん人^のの^ころ^よめ^てお^おぬ^ぬ
わ^らり^ぬあ^りま^はる^この^あめ^のこ^の思^ひ持^つ
て^龍屋^とゆ^り又^も痛^まる^龍人^よま^まの^際治^ら
し^うう^あひ^業と^あら^かる^おせ^いあ^ん

道純

や^めぬ^あめ^のあ^めと^あひ^おて^龍の^あめ^の際^治と^あ
家^とよ^きえ^とと^れる^ゆり^りあ^らぬ^家と^あめ^の人^の

収^ヒ藏^{サウ}天^ニ地^ノ青^ノ囊^ノ潤^ヒ鍊^リ得^テ山^ノ川^ノ丹^ヲ藥^ニ新^ク扱^キ轉^ス卦^ヲ盤^ニ
離^カ甲^ヲ乙^ヲ樂^シ時^ヲ吟^シ咏^シ一^ノ閒^ノ人^ニ

次

道純^{タムシユ}道士^{タムシ}和歌韻^{ワカイン}

龍山^{リウサン}喝食^{カツキ}玄竺^{ケンチク}

一^と世^には^戸あ^まり^り一^つ時^には^龍治^と兵^に危^し
と^とて^若葉^和尚^{より}傳^法は^女人^{いと}
た^うと^うけ^んと^悟り^おと^おせ^らる^お
男^女れ^差別^あれ^と思^ひ持^りて^接
扱^乃と^あめ^のあ^ん

道純

心く乃御法此忍よく家とくそこの道のおもひかん
道純居士咏和歌見寄用其末字爲韻
遠景善財跡可言真丈夫我儂曾打破龍女手
中珠

了然比丘尼書送

父母乃恩深と事と思ひ侍り掛より恩と
とるよくと恩重經法華經おと書てよ白
々はふ
乃純

わとつらふまゝにたりの法のた文字知ふ事ありり

剝皮取血寫蓮經圖報慈嚴養育情爲子如斯
行孝義雙親必也證無生

播州道純信士血書蓮經報親以此示之

黄檗漢松院獨吼老僧艸 唐人

親に喪ふことごとく侍る時

道純

大孝報親恩

大孝報親恩

黄檗四代獨湛

和送 唐人

親乃喪よ慕よこり侍るしとて

道純

敬ふふのや本れ慕ふ埋む親の御墓に名もん

孝誠

唯孝通天地由誠走聖賢

山城佛國高泉書贈道純孝子

喪れ申よ乳髪乃長と人れとん

ま〜うはの〜ん

道純

乳髪は長らあり〜

孝

百般行孝為先

華嚴惟一書送

他力此妙門縁法此一經念佛ありて

信りてしつては生れしけりては死すといひ
信りては死すといひては生れしけりといひ
信りては生れしけりといひては死すといひ
信りては死すといひては生れしけりといひ
信りては生れしけりといひては死すといひ
信りては死すといひては生れしけりといひ
信りては生れしけりといひては死すといひ
信りては死すといひては生れしけりといひ
信りては生れしけりといひては死すといひ
信りては死すといひては生れしけりといひ

血書彌陀經序

夫佛乘之智至深至妙豈以淺語言哉非仁慈
篤信之人焉能知耶播州高砂厚見道純常意
居士常慕此道往往親造予室其誠意可嘉近
持血書彌陀經乙卷日日親持讀誦正信之念

其願頗切索予微語是以爲序

華嚴室惟一 謹書 唐僧

跋

阿彌陀一經其文二千餘字詳陳清泰依正莊
嚴等事以攝受有情夫有情之輩處五濁泥塗
中不自知其苦故以淨土勝境發揚稱讚俾動
其拔援哀慕之思讀是經不覺業謝塵寰而神
棲寶域者矣播州高砂厚見道純優婆塞瀝血
當煤手抄一冊又持數十徧依經直觀不亂一
心則娑婆命壞淨土文成矣若心不一半信半

疑或勤或怠打入葛藤窟裡即不相應道即不
純經亦不驗也囑囑

黃檗第四代 獨湛書 唐人

道純

鐵漢便之真鐵漢掀翻這十分疑巢知諸佛即
彌陀佛如是看來會佛教

播州鱗峯散人元元獨芳 和送

道純

かゝるをいふはあつたてのまゝにいふはあつたてのまゝに

盡度十方有情界不論智愚與貴陋尋屬衆生
機即去圓成一念莫回漏

尾州名護屋榮國寺善空 和送

道純

やゆゑをいふはあつたてのまゝにいふはあつたてのまゝに

火元遮闇德闇破火不能亡脚明闇去是名無
盡燈

同 和送

予諸方之善知識よ參見とゆひの蔵りあて

不生此一大事と云ふなりと云

道純

法は為るべしと云ふは、
今よりも、
我らも、
蓮社客不知身也在塵寰

因幡國龍峯寺千嶽 贈送

洛陽東山黒谷院光院
於とや、
わく我まあひたり
てうくわん

道純

あはれたる言ふ今湯と云ふは、
竊惟施有多種法施財施藥施湯施等也
其數不可勝計也茲道純居士一日於東
山黒谷設湯施想微奉擬
南朝光明后宮之慈旨者歟厥志亦可矣因
賡其和歌韵尾偈贈

聖賢導世一先慈財法二施也太奇洗浴由來
存五德除風除垢使人思

播州梅花翁山人 和送

玄堂和尙は相見し時師とて曰はるるを
乃純乃と教とはし時師とて曰はるるを

道純

このはた結まのるの境の境を免れ角の免れ
純眞爲道越常情參見諸師心性明看破世間
同幻化無生妙智自圓成

筑後柳川福嚴寺玄堂 和送

あねと此大のよあうりてやまこを
かきあうりあうり判と見ゆりて
何しと點とあうり平あ則判とあし
て後又まひりりれいひりあうりあして
よるいおひて予に回りせぬあを皆人
判の書と其發と志とことあ一汝印
字れあを知るやとあうり一時汝あうり
とうこていね誦とあうりあうりあ

道純

九重やあがみか
くねよあそゆ三
乃志教し判子見
えくろ

天竺之

印符圖

長養



遠離

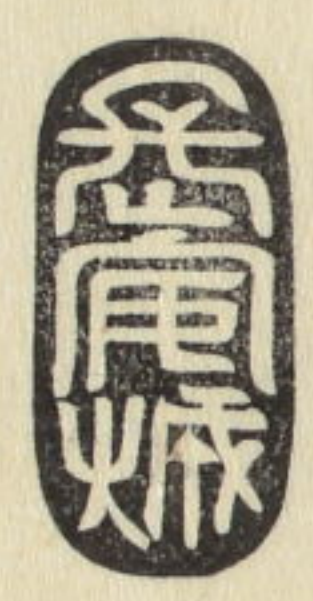


釋迦判世尊之



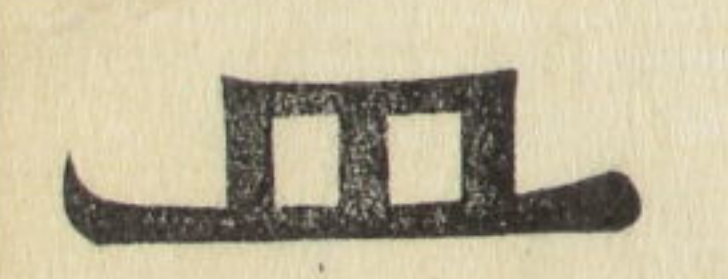
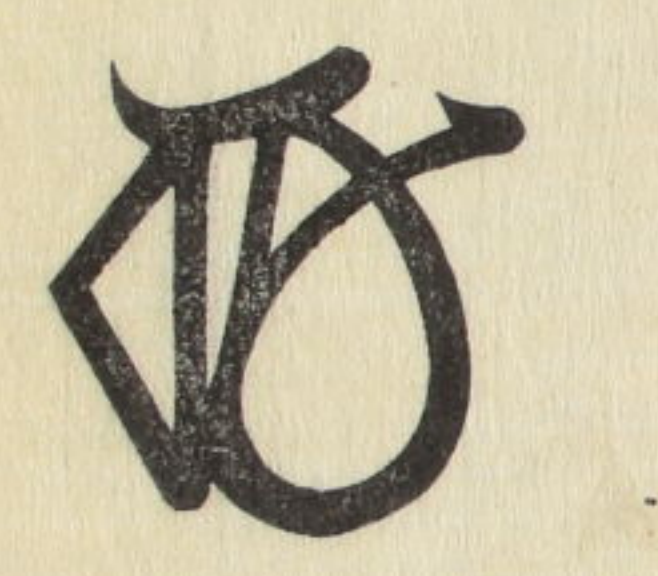
大唐之

印字圖



日本之

判形圖



印字判形之偈曰

鶴立龜形勢未休
孔門弟子無人識

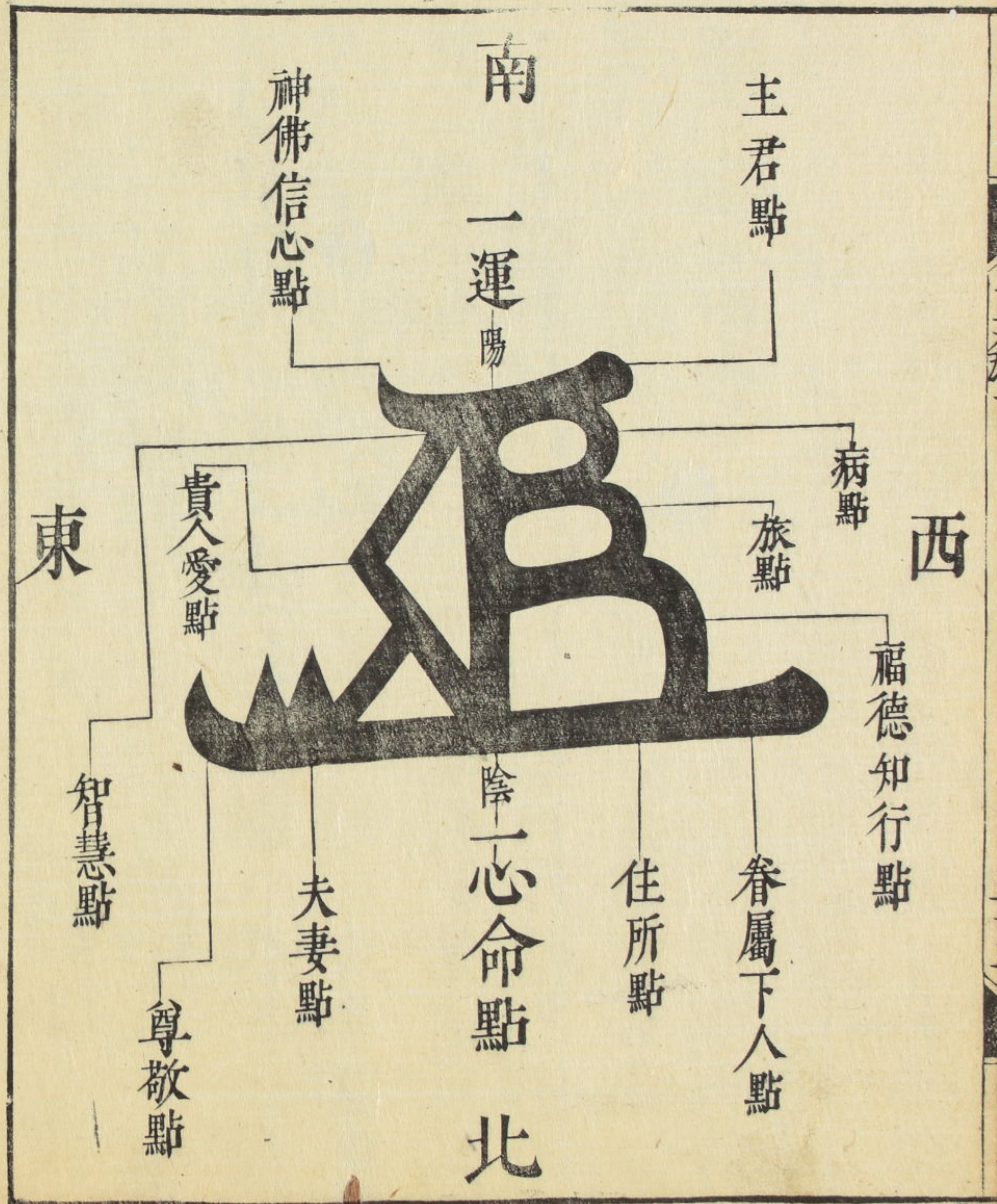
五天文字鬼神愁
碧眼胡僧笑點頭

夫判ハ天竺大唐日本是三國ニ互テ專人尊
ミ證實トス凡天竺ニハ梵字ヲ以テ判トシ
大唐ニハ古文字ヲ以テ判トス日本ニハ木
火土金水ノ形ヲ以テ判形トセリ天地萬物
五行ヲ離ル事ナレ木體青色東團形○金體

白色西半月 火體赤色南三角△水體黑色
北圓形○土體黃色中四角□皆此ノ形五行
ヲ合レテ判形トス抑判ノ發リハ日本開闢
ノ時大海ニ大日ノ印文浮ベリ是ニ依テ二
神此國ヲ儲ケ給フ大日ノ印文ハ是天地ノ
印シタリ世界ノ印タル物日月ヨリ大二正キ
ハ無レ故ニ天地ノ印判ハ日月ナリ 天照
皇太神魔王ト御誓ノ時魔王手驗ヲレテ日
神ニ奉ツル是則和朝判形ノ始メナリ今ノ
世ノ證跡ニ手形ト書例是ナリ凡判ハ太極

ニシテ天地方角四時五行悉ク備ハレリ墨ノ
 色ハ天地ノ氣也墨ノ清濁ハ陰陽晝夜ノ黒
 白タリ是易ニシテ明也易ハ數ヨリ發ル判
 又數也點ヲ重テ首尾ス萬物數ヲ離ル事無
 シ故ニ判ハ天地自然ノ易ニシテ一切判形
 ニ書顯ハセリ人ノ姿心ノ有様一代前後ノ
 禍福得失點ニ萌レ筆畫ニ印セリ故ニ其ノ
 惡點ヲ新ニシ時ノ墨色吉凶ヲ見テ勸善懲
 惡セシニ登其徳ナカランヤ判ヲ見明ムル時
 ハ吉凶消長ノ理進退存亡ノ道分明也判ハ

神代ヨリ今ニ至ルマテ天下ノ定法國ノ禁
 メ人ノ大事萬民皆判形ヲ以テ證實トス然
 ルニ予世人ノ用ル處ノ判ヲ察レ思フ二人
 ノ判ニ善惡應不應有ルナリ是自知リ難シ
 故ニ愚今判ヲ直シ定ルニ其判ヲ見テ惡點
 ヲ改メ形ヲ正シ吉凶ヲ卜筮レ天理ニ任セ
 極ルニ其過アラジト闡ヲ以テ著トシ神ニ
 窺ヒ極ル者乎



佛國高泉和尚參因謂云我已參見五十
 三之知識了師云汝卻參見底者識得否
 進云眼橫鼻直師云如是如是又示一偈
 云
 善人能學善財童到處徧參眾知識只有二箇
 參不著解道眼橫與鼻直

寬文十二壬子歲十一月播州姫路鶴棲山雲
 松寺實傳和尚初參問法問孝師云夫佛者悟
 心見性為要也不悟此心性出離生死成佛難

三ノ卷下
三十四
矣若欲得明此心性晝夜無間斷要盡情識此
情盡則心即清淨心清淨則當知自心即是佛
汝亦欲孝親自修行如來大法可勸親親若進
道則離生死是以爲大孝也予守其大旨雙親
果出家

維時寬文十三癸丑正月十六日播州加古郡
五六郎特來黃檗山拜木菴禪師問法剃髮作
弟子法名道純字常意即日受三歸五戒翌日
設齋因問曰身體髮膚受之父母不敢毀傷孝

之始也道純爲父母之深恩雉髮作和尚弟子
莫敢負也師答曰養親事親人身當然之理也
豈可不行也而明父母未生前本來面目見性
悟道出世之大孝也純進云正好報恩承聞師
三世之恩如何得報師舉拳頭曰喚作拳頭則
觸喚不拳頭則背喚作什麼純曰即今來師前
剃頭染衣者是什麼人師答云眼橫鼻直純曰
水是水火是火麼師答云非水非火是什麼物
純無語師又曰汝是奇特但日用中洗心切切
能可有始有終莫敢早卒道純禮三拜退癸丑

八月十四日道純參次進語云不火不水者頓
離生死向上事師云是什麼向上事純以指指
胸師云死了燒了向何處去純云不生不滅師
云猶落在生死路頭純云春色無高下花枝自
短長師云汝卻是上下又曰汝從思量下度中
來未悟入宜須工夫切切純拜謝退

侍者碧峯錄之

寬文癸丑十三年正月十八日至黃檗山禮拜
隱元老和尚設齋因呈一紙師看畢云汝向甚

處去來純云琢玉光生師則黑漆桶云入方丈

侍者月潭錄之

癸丑新春見黃檗高泉和尚純問云非水非火
師云非水非火畢竟是甚麼純拍掌一下師云
拍掌後作麼生純擬議師喝一喝純亦一喝師
云遲了八刻純便作禮師示以褐偈云
參禪靈驗不多方別起眉毛做一場蹉手撲翻
皮袋子法身大地露堂堂

侍者碧梅錄之

天和三亥十二月念八日見紫雲木庵大和尚
師問云如何是道純法純進云這裡無一法師
呵呵大笑純云落髮先年丑春既今日亥十二
月有始有終師云珍重珍重師亦云姑在院內
可越年純禮拜退

侍者泰岳錄之

道純善士呈偈求示師徵曰我者裏從來無一
法與人求個什麼純曰這裡也無一法師曰前

言不符後語純頓足曰道純一法只在者裏師
曰轉成捏怪純曰欲道早是第二義門畢竟中
道實相師曰若論中道實相早是第二第三純
禮拜師則偈示

花開靚面正春風索我親書轉不中筋計打翻
能擺撥騰身撞倒大虛空

黃檗三代慧林 示書

侍者香國錄之

或時到作州見鐵堂和尚師問云恁麼來者凡

乎聖乎純云不凡不聖師云太顛預純一喝師
云亂喝別付一偈云
不凡不聖本來人觀體分明是道純坐立去來
無背觸苟能通徹孰同倫

侍者碧岫錄之

延寶辛酉春暮靈芝山見玄賢和尚問曰平常
無事時如何師云汝道來純云春者花秋者紅
葉師云如是如是師則以一紙云播州高砂清
信士厚見道純篤信於上乘參諸宗匠往來山

僧門有羊矣自肯平常不向外馳求誠是火中
蓮華也

侍者泉首座錄

辛酉霜月播州高砂常意居士至
南岳悅山和尚拜問云先羊相見今日相見是
同是別師云汝誠道看士則打席一下師云離
卻打席道一句來士一喝師云離卻喝明明道
一句看士云兩鏡相照師云珍重珍重

侍者祖春錄之

癸亥年十一月八日高砂常意道純見
雲松和尚捧器物問云此是乾坤箱師云一口
吞卻乾坤時道純何處避身純云和尚與我同
居師云如是

侍者海音錄之

癸亥十二月念七日參佛國高泉和尚次講道
歌韻師云妄想未灰純進云得道時則非妄想
卽禮拜退

侍者晦岩錄之

天和三亥十二月晦日參黃檗當頭獨湛和尚
進日和尚稱彌陀念西方純亦然師云向外莫
求佛進曰是心是佛師云如是如是

侍者龍門錄之

同日見黃檗漢松院獨吼和尚純問云今年今
夜盡明年明日來日日好日則如何師云自己
悟純云冷暖自知師云時節到來

侍者智覺錄之

予除夕寓松堂塔主印光和尚訪予次師問云
臘月既盡闍老來乞飯錢時作麼生純便降翻
机案師云為甚什模樣純一喝師亦咄即出

天和四甲子正月十六日過國分禮拜南源和
尚了問云今日十六和尚如是某甲亦如是師
云如是如是士拜退

侍者雲窻錄之

一日至雲松寺隨眾入齋堂著居士位粥了問
實和尚曰今日正是聖德太子滅日也前來太
子與今日太子是同耶是別耶師云昨日之粥
與今日之粥是同耶是別耶進云米三升水壹
斗師咲云是

侍者海音錄之

有時一比丘入道純室曰凡見居士妻子存食
肉猶未斷可謂造地獄之業也純云諸神聖賢
亦皆造地獄之業也否比丘無語去也純咲云
若依文解義則比丘卻可墮地獄便休

合國名師皆往參爲君
妙語又玄譚我無僞瀆
酬來問壽餅煨爐二三
前偈送財翁居士道純
紫野大德寺覺印頭陀

播州高砂道純居士
曾追善財童子之
蹤參一百餘貧苦知
識末後至子大德禪
寺見天倫覺印之

二尊宿語及從前

遊方之事 賞老送

以偈因 廣其韻

寄亭

山川 經歷 遍詢 泰

願力不 須容 易

譚誰道 善射 今

則沒此 老無二 亦

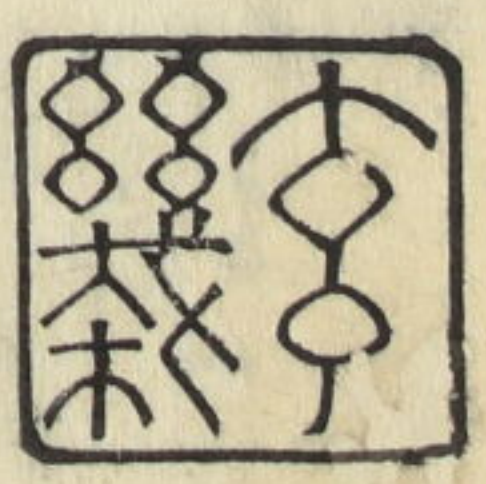
其

元程 茅二 氣次

巳に仲冬日洛索

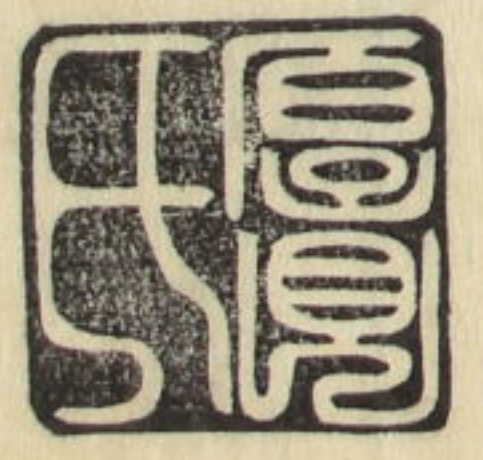
康禪大隨三機

手書



心乃和韻詩偈同答多予國を
く三教をたつもの物
諸師筆印走く侍者印
墨を勤か書しては里
其志一打捨てかしく思ひ
て今是を梓に録むるあり

三休亭道純謹書



元祿二己巳歲八月吉日

京都 八尾市兵衛

書林板

大坂 森田庄太郎

江戸 葛卷治兵衛

